

東日本大震災

2011年3月11日、14時46分からのことは忘れてはいけません。生徒の皆さんにとっては、忘れてはいけないではなく、新たに心に刻（きざ）むべきことです。心に何かを感じたら、それを受け継いでいくのは大事なことです。

心に刻むために、改めて東日本大震災を取り上げます。今でもニュースなどで、震災に関わることが報道されることは多いと思います。しかし、私たちは、同じ福島県の被災地域のことを、どこまでわかっているのでしょうか。被災された方々のことを、どのくらい考えているのでしょうか。

被災地域の中学校の現在の生徒数を調べてみました。浪江（なみえ）町立なみえ創世（そうせい）中学校13名、葛尾村立葛尾（かつらお）中学校3名、双葉町立双葉（ふたば）中学校9名、富岡町立富岡（とみおか）中学校22名、楡葉町立楡葉（ならは）中学校45名、大熊（おおくま）町立学び舎ゆめの森2名などとなっています。

双葉中学校は、双葉町の中学校ですが、現在はいわき市にあります。双葉町が全町避難となっているからです。仮設校舎で今年度が9年目になります。楡葉中学校も、震災後、いわき市の仮設校舎を使っていました。場所は、いわき明星大学、現在の医療創世大学の敷地内です。現在は楡葉町に戻り、6年目となります。

大熊町には、大熊中学校がありました。震災後は会津若松市で仮校舎を使って学校が再開されました。その後、仮設校舎に移りました。令和4年からは、小学校と中学校が一つの学校となり、学び舎ゆめの森となりました。令和5年度からは、大熊町にできる新校舎での生活が始まります。

生徒数を見ると、とても少ないことがわかります。野田中学校には、364名の生徒がいます。全校で3名の生活というのは、なかなかイメージできないでしょう。きっと、やりたくてもできないこともあるにちがいありません。

その一方で、葛尾中学校では、毎朝、1分間スピーチを行い、その原稿を定期的に新聞に投稿（とうこう）しています。また、SDGsの取組としてエコバックを作り、買い物客に配付しています。

双葉中学校では、オンラインによる他校との合同遠隔（えんかく）授業を実施しています。オンラインによって、他校と交流しながら授業を進めることができます。楡葉中学校では、模擬会社をつくり、商品を開発したり販売したりする活動を行っています。東京にある日本橋ふくしま館での販売体験も実施しています。

これらの学校にも野田中学校にも、それぞれのよさがあります。機会があるたびに、福島県をはじめとして震災直後から震災後の現在までの現実を知り、それを理解し、これからのことを考えていくことは重要なことです。3月11日が、そのきっかけとなります。